

コロナ禍における表現活動の可能性追求
— トーンチャイムと劇によるクリスマス・ページェント舞台制作と工夫 —

池田 京子

姫路日ノ本短期大学 〒679-2151 兵庫県姫路市香寺町香呂 890 番地

About possibility of the performance expression
that can obey a rule of the coronavirus infection prevention
— Through the announcement of the Christmas pageant stage production
by tone chime and drama, we will think about various ideas —

Kyouko Ikeda

Himeji-Hinomoto College 890 Koro Kodera-Cho, Himeji-City 679-2151, Japan

1、クリスマス礼拝

姫路日ノ本短期大学(以下、本学と記す)は、保育者、幼児教育者を養成する短期大学であり、かつ、キリスト教主義教育を実施するミッション・スクールでもある。このため、クリスマスの時期における礼拝は特別で、学校行事として扱われ、クリスマス・ページェントもその一つである。

クリスマス・ページェントは、聖劇の一つであるが、現在では、イエス・キリスト誕生物語を何らかの形で上演することを示すのが一般的である。演劇、人形劇、影絵、あるいは朗読と賛美など、様々な方法により、教会やミッション・スクールなどで実施される。本学でも、保育内容演習「総合表現」の授業で、クリスマス・ページェントの準備・練習を重ね、クリスマス礼拝として上演している。

しかし、近年のコロナ禍の影響により、舞台上で、台詞を声で発しながら演技したり、賛美曲を合唱したりというような、これまで通りの演劇形式でクリスマス・ページ

ントを実施することは、残念ながら難しい。

それでは、どのような方法であれば、新型コロナウイルス等の感染症に対する感染リスクを抑えながら、舞台制作を実施することが可能であるのか、表現活動の可能性を考えていく。

なお、著書等からの引用や資料名などを除き、「クリスマス・ページェント」は、以下「ページェント」とする。また、「新型コロナウイルス等の感染症に対する感染リスク」、「新型コロナウイルス等の感染症感染防止対策」は、以下、それぞれ「感染リスク」「感染防止対策」とする。

2、企画でのアイデア

近年のコロナ禍により、学校での感染防止対策には十分に気を配る必要がある。このため、ページェントを実施するにあたり、本当に演劇を取り入れることが可能なのかどうか、感染リスクを抑えながら実施するためにはどうすればよいか、具体的に検討する必要がある。

*姫路日ノ本短期大学 講師

(1) ページェントの実施の可否

2020年1月以降、新型コロナウイルスの感染拡大が社会問題となり、同年3月には、児童を対象とする学校で一斉に臨時休校が実施されるなど、全国的に混乱する事態に陥った。その後は、政府をはじめ、様々な業界で感染防止対策に関するガイドラインが示されるようになった。

学内でもページェントによる新規感染者を出さないためには、まずは、政府が示す「イベント等開催制限」などに従い、より安全に実施する必要がある。また、音楽、演劇等の公演開催に関するガイドラインも参考にしながら、学内でページェントを実施することが可能かどうか検討した。※資料1参照

さて、本学にはコンサートホールの機能を有するベテルホールが敷地内に設置されている。このベテルホールには、天井に排気用の窓があり、公演中も換気することが可能である。また、ページェントは、例えば、学園祭のステージ・イベントなどのように、観客が出演者と共にステージを大いに楽しみながら、会場全体の一体感を楽しんだりするようなイベントではない。あくまでもキリスト教の大切な礼拝の一つであり、私語は控えなければならない。

そのうえで、検討したところ、ベテルホールの収容人数約300人に対して、全学生数は90名程度であり、政府が示す「イベント開催制限」の規準である開催人数の上限、及び、屋内での収容率50%以内のどちらも要件も満たせる状況であった。

(2) ページェントの実施方法

これまで本学では、通常の演劇のような形式で、ページェントを実施していた。マリア、ヨセフ、天使、羊飼、博士のそれぞれが台詞を発しながら演技し、預言者のみが

マイクを使用して朗読する。さらに、場面に応じて、適宜、合唱が歌われていた。

しかし、学内での感染防止対策については、文部科学省による「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」のガイドラインなどにより、演技に関する授業や学校行事、部活動、その他課外活動について細かく示されており、例えば、舞台上で、台詞が聞き取りやすいよう声を張り上げながら演技をしたり、合唱をしたりなどについては、非常に配慮しなければならないか、取りやめる方向で考えなければならない状況である。※資料2参照

そこで、より安心してページェントを実施できる方法について、様々な案をメリット・デメリットとともに検討した。

①劇について

劇については、台詞はナレーション担当の学生数名のみがマイクを使用して声を発することとし、演技者は台詞を話さず、演技のみ実施することになった。これは、活人画（かつじんが）に近い表現方法である。

活人画とは、登場人物に扮した演技者が、場面に適したポーズをとったまま一定時間静止し、歴史的人物や特定の情景、物語の場面などを絵画的に見せる方法である。台詞はナレーション担当者が話すか、朗読をする。情景を見せるときの表現効果を狙って、舞台に背景や照明が加えられることもある。

世界大百科事典（平凡社）によると、「活人画」とは、『活（い）きた人間を用いてえがき出した絵画という意味で、タブロー・ビバン tableaux vivants の訳。』と記されている。

この表現方法は、演技者が台詞を暗記する必要がないことなどから、通常の演劇よりも比較的短い期間で仕上げる事が可能

なため、今日でも全国の教会やミッション・スクールで広く用いられており、クリスマス・タブローといわれる場合もある。

本学では、必ずしも演技者が動かないことを前提に劇を制作するわけではないが、活人画のように、演技者が舞台上で台詞を話さなくてよいのであれば、唾液が飛散してしまう心配が少なく、コロナ禍で実施するページェントとしては、感染リスクが少ないといえる。

②音楽について

音楽についても、感染リスクを抑えるためには、これまでの合唱形式から他の方法への変更を検討する必要がある。

そもそも、ページェントに音楽は欠かせない。なぜなら、ページェントそのものが礼拝として扱われ、その音楽は、単に劇を効果的に表現するためのアイテムではなく、神への賛美であるからである。たとえ、コロナ禍により、生の声で歌うことが許されない状況にあるとしても、賛美曲のない礼拝はあり得ない。

そこで、どのような手段であれば、ページェントに音楽を取り入れることが可能であるのか、資料3に示したとおり、比較、検討した。また、本学が保育者、幼児教育者養成校であることも踏まえ、学生が、将来、保育・教育現場で少しでも、舞台制作の経験を役立てられるよう、意識しながら検討した。

残念ながら、保育・教育現場で使用される機会の多い鍵盤ハーモニカ等については、楽器内部に唾液が残ってしまう可能性をどうしても排除できないことから、楽器の管理や、感染防止対策が困難であると判断し、取り入れることを断念した。また、筆者は、鍵盤ハーモニカがページェントに合った音色の楽器であるとは考えられなかった。

最終的には、保育・教育現場で度々用いられているミュージックベルに代わり、トーンチャイムをページェントに取り入れることになり、他に、効果音を演出するためのトライアングルやウインドウチャイム、カリンバなども適宜使用することになった。

トーンチャイムについては、唾液が楽器に付着したり、楽器内に残ってしまったりする可能性は、管楽器や気鳴楽器に比べると格段に少ないため、手指消毒を徹底したり、練習時などに手袋を着用したりすることで、感染防止対策を実施しながら生演奏が可能であると判断した。

その他、トライアングルやウインドウチャイム、カリンバなども、トーンチャイムと同様の感染防止対策を施すことで、感染リスクを抑えられると判断した。※資料3参照

合唱については「幼児音楽Ⅱ」授業時間を利用して、無観客の学内のベテルホールで事前に録音し、ページェント当日は、その録音による合唱音声をホール音響機器により放送するという形で取り入れることになった。

これにより、「幼児音楽Ⅱ」授業内での合唱練習時には、各学生がマスクを装着したまま小さな声で歌うなどして、感染防止対策を徹底し、事前の録音は、学内のベテルホールにて無観客で実施し、ステージだけでなく、客席スペースも広く使用することで、感染防止対策を実施しながら録音できると判断した。最終的には、このような感染防止対策を実施することで、ページェントに合唱を取り入れることが可能になった。

③その他の感染防止対策

劇や音楽以外での感染防止対策としては、ページェント当日の観客は本学の在校生や教職員に限定すること、客席には間隔を空

けて着席できるよう座席表を作成し、予め、学生の座席を指定すること、劇の時間を15分程度に短縮することなどが、案として盛り込まれた。

このような、様々な感染防止対策により、ページェントを演劇形式で実施した後、新型コロナウイルス新規感染者は1人も発生しなかった。

3、ページェントの台本と演出の工夫

(1) 台本について

ページェントを演劇形式で実施するといっても、劇には台本が必要である。台本を作成するためには、イエス誕生に関するどの場面を、どのように描写するのかを考えなければならない。

台本作成のために使用する聖書は、日本聖書協会発行新共同訳聖書である。聖書のイエスの誕生（待降、公現含む）に関する記述は、主に、マタイによる福音書第1章18節～25節、ルカによる福音書第1章26節～56節、第2章1節～節で、筆者は、これらの箇所を①預言 ②マリアへの受胎告知 ③マリアの賛歌 ④ヨセフへの告知 ⑤イエスの誕生 ⑥羊飼いと天使 ⑦公現 ⑧神の栄光の8つの場面に分割して劇を構成した。ただし、旧約聖書の時代に、すでに、イエスの誕生についての預言があったこと、洗礼者ヨハネの誕生、ヨハネによる福音書第3章16節～17節に示されている神の愛についても、大切に扱われるべきであると筆者は考える。

次に、台本をどのように表現するのかを考えなければならない。そのためには、台本だけでなく聖書をじっくり読み、場面の情景、登場人物の立場や気持ち、時代背景などをきちんと理解する必要がある。

筆者は、授業内で、これらのことに関して

丁寧に説明し、各場面の描写については、数種類の絵本や紙芝居、美術作品などの絵を学生に見せて比較させるなど、台本を理解させるための工夫を図った。

とはいえ、物語を頭で理解できても、実際に演じるとなると難しい。台詞を言わずに身体で表現するとなればなおさらである。このため、実践練習時には、役柄に共感した演技ができているかどうか、動きや表情はどうかなどについて細かく確認しながら、時には、場面内の1シーンごとに区切って練習したり、学生自らが、きちんと振り返ったりすることも大切であると、筆者は感じた。また、それぞれがよいと思う表現を各自で行うのではなく、全員が共通の目標や共通理解に基づいて舞台制作を実施することの必要性についても強く感じた。

(2) 表現の演出

ページェントの劇練習時や上演する際には、当然、台本通り、順に劇をすすめていくわけであるが、劇の始め、預言のシーンから劇の最後の神の栄光のシーンまでを、単に虎視眈々と演じて劇を進行させるだけでは、観客に、今一つ伝わりにくい劇になってしまう。そのため、各シーンを丁寧に演じながら表現するだけでなく、台本の場面ごとの関係性を分析し、変化を考えながら表現することが重要であると、筆者は考える。

①場面ごとの対比を考える

先にも述べたように、本学のページェントは大きく分けて8つの場面から構成される。全体的には、①預言の場面から⑧神の栄光の場面に向かって、盛り上がっていくように進行するわけであるが、そのなかでも場面ごとの対比を考え、劇全体の強弱を意識して表現できるよう、工夫することが大

切である。

決定的な対比の一つは、イエス誕生の前と誕生後である。最初の①預言場面から、イエスが生まれるまでのシーンは全体的に静かであるが、イエスが誕生した後の場面からは華やかな雰囲気を感じられるよう意識して工夫すると、劇全体で静と動、あるいは暗と明のコントラストを、よりはっきりと表現することができる。

具体的には、イエスが生まれる前までは、舞台に登場する演技者の人数を可能な限り制限し、イエスの誕生後のシーンからは、登場人物を増やしていく。特に、マリアやヨセフについては、イエスの誕生前では、緊張気味に、誕生後は微笑ましい表情で、生まれたばかりのイエスを見守るように演じていくようにすると、観客にも、劇中のコントラストが分かりやすくなるであろう。

音楽も、イエスが生まれる前の預言やマリア、ヨセフへの告知など、待降節の場面では静かな曲を選曲し、イエスの誕生を境に、華やかな曲を選曲する。

舞台照明も同様に、イエスが生まれる前までは、登場人物のみ照明を使用し、イエスが生まれた後は、舞台上の演技者の人数に合わせて、舞台全体を照らすようにしていくように工夫する。あるいは、待降節のシーンでは青などの寒色系の色を中心に使用し、誕生後は、黄色やオレンジ、緑というような、暖色系や明るい色を使用するようにする。

このように、イエスの誕生前と誕生後の場面とを意識的に区別して表現することで、観客には直接的な説明がなくても、「イエス様の誕生は喜ばしいことである」と伝えることが可能になるのである。

他にも、羊飼いと博士とを対比させることができる。聖書をよく読んでみると、マリ

ア、ヨセフ、羊飼いは、それぞれ、天使のお告げによってイエス様の誕生に関する告知があるのに対して、博士が登場する公現の場面では天使は登場せず、特別な星によってイエスの誕生を知らされていることが分かる。

天使とは神の御使いである。このことを考えたとき、羊飼いと博士の対比を「その日その日を精いっぱい生きる庶民のなかでも、貧しい人ところにほど、神は祝福をもって現れ、その御力を示す」、あるいは「神は、その人にとって最も適切な方法で御力を示す」と表現することが可能である。

台本を理解してきちんと分析し、演技者だけでなく、音楽、照明など、制作全体で、場面ごとの変化を工夫することが大切である。

②テーマを強調する

また、劇を披露することによって、劇全体を通して伝えるべきこと、つまり伝えたいテーマをはっきりさせておくこともまた、重要である。そのうえで、場面変化にコントラストを付けられると、劇のテーマはより伝わりやすくなるのである。

ページェントの場合は「神の愛」「信じる者は救われる」「イエスの誕生」など、様々なテーマで表現することが可能である。

例えば「貧しい人ほど祝福される」、「罪人である私たちを救うために、神はその独り子を与えられた」というようなことを表現するのであれば、テーマは「神の愛」である。

マリアのように、「神を信じ、心の清い者は祝福される」ということを表現したいのであれば、テーマは「信じる者は救われる」であろう。

また、クリスマスは娯楽的な意味で楽しい行事であると考える人々に見せるのであ

れば、「イエスの誕生」をテーマに、イエスの誕生はキリスト教にとって嬉しい出来事であることや、クリスマスの意味について表現するのもよいだろう。

伝えたいテーマがはっきりしていれば、そのテーマに関連の深い場面ほど、おのずと強調して表現するための工夫が浮かんでくるものである。反対に、テーマがはっきりしていなければ、場面構成の目的が定まらず、メリハリのない劇になってしまうのである。

実は、これはページェントに限ったことではない。物語を実際に表現する時には、様々なテーマのなかから一番表現したいことを一つだけ選んで制作することが重要である。このことは、倉橋健著「演出のしかた」のなかで『作者の意図や創作の動機を綿密に検討し、作者がこの作品で表そうとしたことはなんであるかを、具体的にはっきりと、脚本に即してつかむことが必要です。』と記され、台本をきちんと分析し、表現すべきテーマを見据えた舞台制作の重要性を示している。

本学のページェントの場合は「神の愛」をテーマに表現できるよう心掛けた。②マリアへの受胎告知や④ヨセフへの告知では、マリアと天使、ヨセフと天使をいずれも1対1で演じるようにし、羊飼いと天使のシーンでは、羊飼いや天使の人数が多い、または、羊飼いや天使の人数で構成した。

さらに、音楽でも、⑥羊飼いや天使のシーンでは、他の場面よりも多く取り入れた。

4、ページェントの音楽とトーンチャイム

(1) 選曲の工夫

演劇では、一般的にはキャストの演技が中心で、音楽はほとんど使用しない。音楽を多く用いるのは、「ミュージカル」や「オペ

ラ」などであり、「演劇」のジャンルとは区別して考えられるのが一般的である。

しかし、ページェントでは少し事情が違っている。なぜなら、ページェントそのものが礼拝となるためである。ページェントの上演時間内に占める音楽の割合は、劇全体の約30%～50%であるといっても過言ではない。それほどまでに、ページェントで果たす音楽の役割は大きいのである。このため、選曲の作業もまた重要である。

本学のページェントでは、音楽は、讃美歌や子供向けのクリスマス曲のなかから選曲した。短期大学生が演じる劇に子ども向けのクリスマス曲を使用したのは、本学が保育者・幼児教育者養成課程であるからゆえである。

選曲作業において、筆者が最も大切にしたのは、劇の場面と選んだ賛美曲の歌詞が概ね一致することである。これは、礼拝時に牧師が説教に合わせて賛美曲を決定するのと同じである。コロナ禍ゆえに、実際には、賛美曲に歌詞を付けて歌うことは出来ないが、だからといって、明らかに場面と何も関係のない曲を使用するのであれば、演技者が、場面や登場人物の背景を理解したり、役柄に共感したりしながら演じる理由がなくなってしまう。これは、選曲によって舞台制作全体の質を下げる行為であると、筆者は常々考えている。

さらに、曲想にも配慮した選曲を心掛けた。例えば、ページェントの始めからイエス誕生のシーンまでは、主に待降節の曲を使用し、テンポはあまり早くなく、静かな曲を用いるよう工夫した。逆に、イエス誕生のシーンの後は、外国のキャロルやテンポが速めの華やかな感じの曲を使用するよう心掛けた。

全体的には、クリスマスがキリスト教に

とって、喜び、感謝すべき行事であることを考え、殆どの曲で長調の曲を使用した。

加えて、殆どの場面では、音楽は一場面終了直後に1曲を演奏または放送することを基本としたが、⑥羊飼いと天使のシーンでは、4曲を演奏または放送し、場面ごとの上演時間を、他の場面より拡大することで、貧しい羊飼いに對する神の愛を強調できるよう工夫した。

音楽形態については、ページェントが観客に単調に捉えられてしまう可能性を避けるため、トーンチャイムのほか、一部の曲で合唱を取り入れ、事前に録音したものをページェント当日に放送した。さらに、曲によっては、放送による合唱にトーンチャイムの生演奏を加えることも行い、音楽に変化を付けた。

(2) トーンチャイムについて

トーンチャイムは四角い筒型の楽器で、音を鳴らすためのクラッパーが取り付けられており、楽器を前に押し出しながら振り子のように振ることで、一つの楽器につき特定の決まった高さの音を一つだけ鳴らすことが出来る。音の高さによって楽器の長さがそれぞれ異なり、高い音は短くて軽く、低い音は長くて重い。金属製で余韻が比較的長いため、楽器を鳴らした後で音を止める動作も必要である。このため、テンポの速い旋律を演奏するよりも、ハーモニーを感じながら和音を演奏する方が向いている楽器であると筆者は考えている。

トーンチャイムのルーツは、教会の鐘である。はじめは一つの鐘で教会の周辺住民に時刻を知らせる役割を果たしていたが、その後、音の高さの異なる鐘を組み合わせ、メロディーによって時刻を知らせることも行われるようになった。カリヨンなど

がそれである。しかし、決められた時刻に決められたメロディーを演奏する以外は音を鳴らすことが出来ず、予め、そのメロディーを練習することが出来なかった。これを解消するためにハンドベルが登場したといわれている。

ハンドベルも、教会の鐘やカリヨンと同様に金属製で、一つの楽器で一つの音を鳴らすことが出来る。音の高さによって楽器の大きさはそれぞれに異なり、高い音は小さくて軽い、低い音は大きくて重い。なかには8キロを超える大きさのベルもある。また、ハンドベルを一式揃えるとなると、現在でも数百万円の費用のかかる高価な楽器でもある。そこで、このようなハンドベルに代わる楽器として、ハンドチャイムやミュージックベルが広く用いられるようになった。

ひとことでミュージックベルといっても値段はさまざまであるが、ベル1つ当たり千円～数千円程度の安価なミュージックベルでは、楽器は金属とプラスチックから成り、軽くて振りやすく、傷つきにくい仕様となっている。仮に、誤って傷ついたり破損したりしてしまっても経済的損失は少ない。音の高さに関わらず大きさは一定で、音によって色分けされているため、小さな子供にとっては大変使用しやすい楽器であるといえる。

トーンチャイムはハンドチャイムの一種で、日本のメーカーである株式会社鈴木楽器製作所が制作した楽器である。同様の楽器には、外国のメーカーによるクワイアチャイムやメロディーチャイムがある。

現在では、世界中の教会で賛美曲の演奏に、合唱のほか、ハンドベルやハンドチャイム、ミュージックベルが広く取り入れられており、様々な曲の楽譜が出版されている。

また、いずれの楽器も、メロディーに含まれている音のうち、一人が1つか2つを担当するため、ある程度の人数が揃わなければ音楽としての演奏は不可能である。しかし、メンバー全員で協力し合って一つのもので作り出せるという観点から、近年では教育楽器としても用いられ、様々な保育園、幼稚園、認定こども園の生活発表会などでも、ミュージックベルが使用されている。

(3)編曲と割振りの工夫

ところで、トーンチャイムを用いるに当たって苦労したのは、編曲と割振りである。楽器の特性上、ページェントに限らず、ミュージックベルやトーンチャイムの指導者は、常に悩まされる事柄であろう。

本学のトーンチャイムは3オクターブである。讃美歌の多くは4声で記されており、トーンチャイムの音域外の音も含まれることが多いため、殆どの曲でトーンチャイムの音域に合わせた編曲が必要であった。この時、讃美歌の調性を変更せざるを得ない場合も多々あり、シャープ系に編曲するのか、フラット系に編曲するのか、劇の場面を考えながら、実際に讃美歌をピアノで演奏するなどして選択した。また、トーンチャイムは複数人で和音を演奏するのが美しい楽器であるとの筆者の考えから、長三和音の第三音の重複は極力避けながら、和音が厚くなるよう心掛けて編曲した。

トーンチャイムの割振りについては、気を付けたい事柄がいくつかある。一つは、演奏時の学生の並び方と各音の演奏回数、2つ目は担当してもらう音域、3つ目は演奏しやすさなどである。

トーンチャイム演奏時のメンバーの並び順は、音の高さの順に音を割り振るのか否かで決まってくる。

3オクターブのトーンチャイムでは、メロディーと伴奏の両方を演奏することが可能である。たいていの場合は、低音は曲のバス声部にあたり、音の出現回数が少なく、音を長く伸ばすことも多い。高音は曲が盛り上がるタイミングで出現するため、メロディーラインのなかでも出現箇所が限られる。

このような事情を踏まえると、メンバーそれぞれが、なるべく同じような回数を担当できるように音を割り振るのであれば、演奏時には、音の高さを鍵盤のように順に並べることは不可能である。逆に、演奏時に、鍵盤が順に並んでいるように音楽を聴かせたいのであれば、メンバーの担当回数には、回数の多いメンバーや少ないメンバーが現れる。

例えば、トーンチャイムやミュージックベルを、保育・教育現場での生活発表会や、児童、大人の余興として演奏する場合など、メンバー参加型で演奏する場合であれば、音の並び順がバラバラになっても、担当回数なるべく平等に割り振る方がよいであろう。しかし、ページェントは余興ではなく、れっきとした礼拝である。礼拝の音楽は、本来は神に捧げるものである。このことから、ページェントでは演奏を重視して、音の高さの順に割り振った。ただし、音の出現回数に対する不平等については、他に、劇中の効果音を担当させたり、学生のこれまでの経験や特性を考慮したりすることなどにより、カバーできるよう配慮した。

次に、誰にどの音域を担当してもらうかについても、考えなければならない。筆者の経験では、低音域、中音域がしっかりしていれば、演奏は安定することが多い。その理由のひとつとして、音域ごとの特性があげられる。

まず、高音域については、低音域に比べて

音の出現回数が多い傾向にあるが、メロディーラインを演奏することが殆どであるため、音の出現回数の割には覚えやすい。楽器も軽くて扱いやすいため、初心者でも音を鳴らしやすく止めやすい音域である。ただし、演奏中の音のミスは、非常に目立つ。

低音域は、音が低くなるほど出現回数も少なくなる場合が多い。楽器は重く、音を鳴らすために両手を必要とすることもあり、さらに、余韻が長いため、音を止めなければ和音の変わり目で響きが濁ってしまう。演奏回数は少なくとも、高音域に比べると、圧倒的に労力が必要である。

中音域は、メロディーと伴奏の両方を担当することになるため、音の出現回数が一番多い音域である。また、一点ハ音周辺では、讃美歌の声部の関係から、同じ譜表内でト音記号とヘ音記号の両方に担当する音が出現することもある。楽譜を読むのに苦労せず、いつも注意深く確認できる学生でなければ難しい。

ところで、本学は保育者・幼児教育者養成校であるため、学生のほぼ全員がピアノ実技に関する授業も履修している。よって、先に述べたような音域の特性を踏まえて、中音域については、初見が平均よりも早い学生や、ソナチネを既に数曲習得している学生に割り振った。低音域は身長の高い学生や体力のある学生を優先的に、高音域については、トーンチャイムを初めて経験する学生や、ピアノを弾くのは苦手であるが、トーンチャイムをぜひとも経験してみたいという意気込みのある学生に、それぞれ割り振った。

さらに、トーンチャイムの演奏しやすさについても配慮して割り振らなければならない。

音楽には拍子やリズムがあり、曲によっ

て、テンポの速い曲や比較的ゆっくり演奏できる曲がある。テンポの速い曲の場合は、裏拍に該当する音や、付点の後の十六分音符のリズムだけを演奏することは、初心者にとっては難しい。このため、音を鳴らす回数が増えることになっても、拍の頭にくる音と裏拍はセットで担当させる方がよい。

これらのことに配慮するためには、楽譜を、再度、細かく分析しながら、なるべく裏拍のみの担当にならないよう、工夫する必要がある。

また、曲のなかで借用和音が使用されている場合に、一度だけしか出現しない音がある場合がある。しかし、その一度だけしか出現しない音があるからこそ、ハーモニーに変化が生じるのであって、その音の果たす役割は非常に重要であると筆者は考えている。

トーンチャイムを回数重視で割り振る場合に、時々、この一度だけしか出現しない音を省略しようとするケースもあるようだが、演奏重視で割り振るのであれば、決して見逃してはいけない音である。とはいえ、その一度だけしか出現しない音だけの担当者を配置するのは、確かに、難しい場合もある。この場合も、やはり、楽譜を今一度よく確認し、どの音の担当者なら演奏可能なのかをよく見極める必要がある。

その他、ページェントでは、10曲以上の音楽にトーンチャイムによる演奏を要するため、曲によって調が違えば、出現する音も異なってくる。このため、例えば「ド」の音の担当者は、どの曲も「ド」の音を演奏するというような、特定の決まった音を一律に担当させることが出来なかった。そこで、番号制を用いて、どの曲でどの音を担当するかが分かるように表を作成し、曲ごとの楽器の持ち替えも分かるように工夫した。

4、ページェント実施後の学生アンケートと考察

(1) アンケートについて

本学では、毎年、12月中旬にページェントを実施している。そこで、ページェント実施後に、感染防止対策その他について、129名の学生を対象に記名式アンケートを実施し、86名から回答を得た。※資料5参照

ページェントの感染防止対策については、殆どの学生が「配慮があった」と回答している。また、「どのようなところが感染防止対策に配慮されていたと思うか」という質問に対する「その他」の回答では、

- ・劇の時間が短かった
- ・座席は間隔を空けて着席するよう、決められていたこと

などが挙げられた。

また、ページェントが楽しかったかどうかについては、殆どの学生が「楽しかった」と回答しており、コロナ禍による舞台制作は肯定的に捉えられたといえる。

ページェントを楽しめた具体的な理由やその他の意見については、次の通りである。

- ・トーンチャイムがとてもきれいだった
- ・ナレーションに合わせて演技者が頷く演技をしていて、分かりやすかった。
- ・感染防止対策に対する配慮がよかった。
- ・音楽などの演出がよかった
- ・小道具が凝っていた
- ・劇の内容がとても分かりやすかった。
- ・博士の衣装がよかった。
- ・丁寧に演技をしていてよかった。
- ・ページェントを初めて見たので楽しかった。
- ・今までとはまた違ったなかでの演出や演技などがとてもよかった。

などである。

しかし、一方では、

- ・生できちんと歌いたかった
- ・コロナ禍なので仕方がないが、台詞を言ったり歌を歌ったりなどがなかった
- ・演技者が台詞を言わないので、今までと比べると、劇が不自然に見えた。

といった回答も見受けられた。

(2) 考察

2021年4月以降から、徐々に、コロナウイルスに対するワクチン接種が実施されるようになり、感染により重症化する確率は、減ってきているといえよう。しかし、次々と変異するコロナウイルスに対して、今なお予断は許されない状況にあり、安心して演劇などを鑑賞できる状況であるとはいえない。

このようななかでも、演技や演出を工夫することで、ページェントを実施出来たことは、大変、喜ばしい限りである。

しかし、やはり、通常の演劇形式でページェントを実施したい、あるいは見たいという意見も根強くあり、演技と台詞の担当者を分けても違和感なく鑑賞できるよう、さらに、工夫していく必要がある。例えば、ひな壇を劇中で、もっと有効的に利用することや、演技者が舞台上でナレーションの会話に合わせて動くことなどが挙げられる。

また、授業回数が限られているため、舞台制作を実施するための練習時間が足りない、という意見も挙げられている。どのような練習をして、どのようなプランで仕上げていけばよいのか、効果的な練習方法についても課題が残されている。ページェントに限らず、豊かな表現活動を求めて、今後、さらなる可能性を追求していく。

<資料1> イベント開催制限の段階的緩和の目安と留意点

	5 / 25～	6 / 19～	7 / 10～	8 / 1～
屋内での収容率	5 0 %以内	5 0 %以内	5 0 %以内	5 0 %以内
人数上限	1 0 0 人	1 0 0 0 人	5 0 0 0 人	制限なし
備 考	人と人との間隔を十分確保できないもの等は慎重に対応する		—	
	密閉空間で大声を発するもの等は、厳格なガイドラインによる対応を行う			
<div>・ イベント会場での上限に満たないイベントであっても、イベントの形態や場所によってリスクが異なることには十分に留意すること。</div> <div>・ 密閉された空間においての大声での発生、歌唱や声援、または、接近した距離での会話等が想定されるようなイベント等に関しては、開催をより慎重に検討すること。</div>				

(注) 収容率と人数上限のどちらか小さい方を限度とする。

参考：移行期間における都道府県の対応について（令和2年5月25日）

／内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室

<資料2> 音楽科目の歌唱指導に関連する文部科学省の方針・方向性

日付	幼稚園	小学校	中学校	高等学校等	大学・短大等
4月23日 現在	教科としての 対応は求めないが 園での活動では 小・中・高等学校と 同様の対応が 求められる	・年間指導計画の中で指導順序を変更する ・歌う際には出来る限り一人一人の間隔を空ける ・人がいる方向に口が向かないようにする など			徹底的に 3密を避ける ①換気の悪い 密閉空間 ②多数が 集まる密集 ③近距離での 会話や発話 密接
5月13日 現在		・当分の間、実施しないようにする ・年間指導計画の中で指導順序の変更・見直しを 検討する ・地域のコロナウイルス感染状況を踏まえて判断する。 など			

参考：新型コロナウイルスに対応した小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校等における

教育活動再開等に関する Q&A ／文部科学省

大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドライン／文部科学省

<資料3> 姫路日ノ本短期大学ページェント実施方法検討資料

		メリット	デメリット	工夫・その他
1	劇 ・ナレーション 担当者のみ 台詞をマイクを 使用して話す	・練習により、 演技者とナレーション者で、 適宜、タイミングを合わせら れる。	・一度に数多くのマイクは 使用できない。	・演技は動作を大きく大袈裟に するよう指導する。 ・マイクは計3～4本使用可能 有線1～2本 ワイヤレス1本 ミキサー1本
2	独唱 重唱 合唱		・生演奏が可能かどうかは 慎重に判断する必要があるが、地域の状況など を 前もって判断することが難しい	・歌う曲数を少なくする ・生演奏を避け、録音音声の 使用を検討する
3	ピアノ	・感染防止策を行いやすい ・ソロ、伴奏のどちらにも 使用可能	・練習時に、ピアノの出し 入れが必要 ・ステージが狭くなる。	・必要な場合は取り入れる ・使用後は鍵盤等を消毒する ・授業の前後に手洗いや手指 消毒をさせる
4	トーンチャイム その他の各種 ベル・チャイム など	・楽器の消毒など、感染防止 対策を行いやすい ・音色がページェントに合わ せやすい ・みんなで一つの音楽を作る ことができる。 ・演奏の経験を、将来、ミュー ジックベル指導時に役立て られる	・楽器の材質により、消毒 や水分を含んだ塗布 などが難しい場合もある ・欠席者がいると練習時 に音が抜ける	・授業後に楽器を消毒する ・授業の前後に手洗いや 手指消毒をさせる ・場合によっては、白手袋を 着用する
5	打楽器	・楽器の消毒など、感染防止 対策を行いやすい	・皮製の太鼓など、一部の 打楽器には消毒液や 水分は、使用出来ない。	
6	鍵盤ハーモニカ ハーモニカ リコーダー その他	・教育楽器として用いられて いる。	・楽器の内部に唾液が 入る ・楽器内部の消毒は困難 である ・鍵盤ハーモニカは ページェントに適した音 ではない	・飛沫感染のリスクが高い ・個人で管理させると、忘れた 場合は授業への参加が難し くなる ・学生同士で勝手に貸し借り する可能性がある
7	弦楽器	・楽器や弦、弓、などには 消毒液を付けられない		

<資料4>

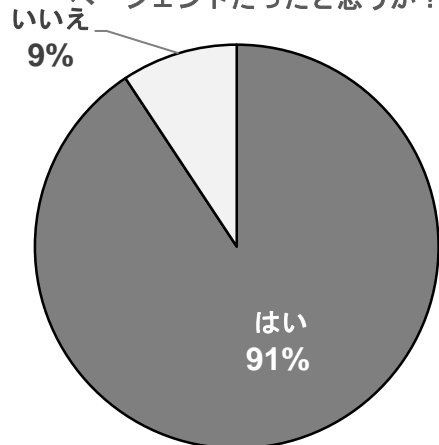
◇ 2021年度 姫路日ノ本短期大学クリスマス・ページェント ◇

場面	聖書箇所	役	台詞	音楽
			オープニング演奏	合唱&トーンチャイム ＜良きおとずれ＞ 新聖歌 71番
1 待降	イザヤ 9:5	預言者	ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。	
			ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。	
			権威が彼の肩にある。	
			その名は、「驚くべき指導者、力ある神 永遠の父、平和の君」と唱えられる。	
	マタイ 1:23		「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。 その名はインマヌエルと呼ばれる。」	
			この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。	
	ヨハネ 3:17	全リーダー	神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、 御子によって世が救われるためである。	
				歌 ＜かみさまのおやくそく＞ 幼児さんびか 27番
2. 胎告知	ルカ 1:26-35	預言者	今から約2000年前、天使ガブリエルは、 ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。 その町には、ダビデ家のヨセフという人のいいなづけで、 マリアという、心の清い乙女が住んでいた。 天使は彼女のところに来て言った。	
		天使	「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます。」	△トライアングル
		預言者	マリアはこの言葉に戸惑い、 いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。	
		天使	「マリア、恐れることはありません。 あなたは神から恵みをいただいたのです。 あなたは身ごもって男の子を産みます。 その子をイエスと名付けなさい。」	
		マリア	「どうして、そのようなことがありえましょうか。 わたしは男の人を知りませんのに。」	
	ルカ 1:37-38	天使	「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包んでいます。 だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれるのです。 神にできないことは何一つありません。」	
		マリア	「わたしは主のはしためです。 お言葉通り、この身に成りますように。」	
		預言者	そこで、天使は去って行った。	
	ルカ 1:46-48	マリア	「わたしの魂は主をあがめ、 わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。 身分の低い、この主のはしためにも 目を留めて下さったからです。 今から後、いつの世の人も、わたしを幸いな者と言うでしょう。」	
				トーンチャイム ＜神はみ子を＞ 聖歌総合版 818番
	マタイ 1:18-21	預言者	マリアが身ごもっていることを知ったヨセフは 正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを 望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。 すると、主の天使が夢に現れて言った。	
				△トライアングル
		天使	「ヨセフ、ヨセフ・・・。」	
		ヨセフ	「はい、ここにおります。」	
		天使	「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。 マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのです。 マリアは男の子を産みます。その子をイエスと名付けなさい。 この子は自分の民を罪から救うからです。」	
				トーンチャイム ＜エサイの根より＞ 讃美歌 96番

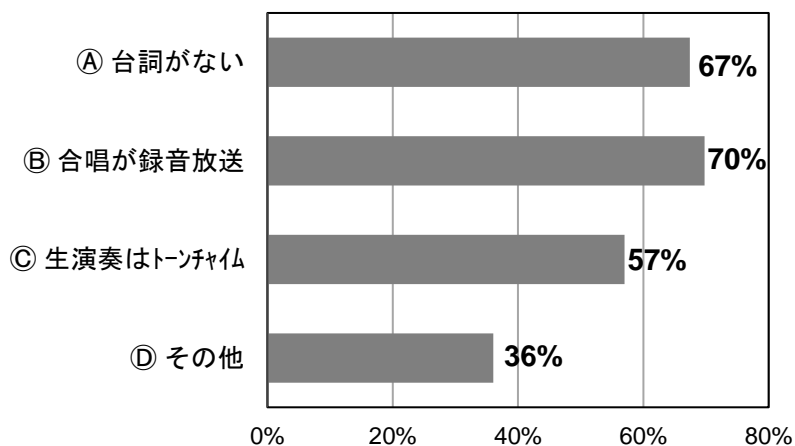
5. 降誕	ルカ 2:1-2 ルカ 2:4-7	預言者	そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、	
			住民登録をせよとの勅令が出た。	
			ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、	カリンパ
			ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムという	くきよしの夜> 讃美歌21 264番
			ダビデの町へ上って行った。	
			身ごもっていた、いいなづけのマリアと一緒に	
			登録するためである。	
			ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、	
			馬小屋で、初めての男の子を産み、	
			布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。	
6. 羊飼いと天使	ルカ 2:8-12	預言者	その地方で羊飼いたちが野宿をしなが、	
			夜通し羊の群れの番をしていた。	
			すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、	
			羊飼いたちは非常に恐れた。	
		天使	「恐れることはありません。わたしは、民全体に与えられる	△ウインドウチャイム
			大きな喜びを告げに来たのです。	
			今日ダビデの町で、あなたがのために	
			救い主がお生まれになりました。	
			この方こそ主メシアです。	
			あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている	
	ルカ2:14	天使全員	「いと高きところには栄光、神にあれ、	歌 <とおいとおいむかし> The Trapp Family Book of Christmas Songsより
			地には平和、御心に適う人にあれ。」	△トライアングル
				歌 <いそぎゆけひつじかい> ドイツ・キャロル
	ルカ2:15	羊飼い	「さあ、ベツレヘムへ行こう。	
			主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか。」	
	ルカ2:20	預言者	羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおり	歌&チーンチャイム <荒野の果てに> 讃美歌106番
			だったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。	
				トーンチャイム <こどものキャロル> チロリアン・キャロル
7. 公現（三人の博士）	マタイ 2:1-2	預言者	ヘロデ王の時代に、	
			占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、	
			言った。	
		博士	「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。	
			わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」	
	マタイ 2:5 マタイ 2:9-10	預言者 人々	すると、エルサレムの民の祭司長たちや立法学者たちは言った。	
			「ユダヤのベツレヘムです。」	
		預言者	占星術の学者たちがそれを聞いて出かけると、	
			東方で見た星が先立って進み、	
			ついに幼子のいる場所の上に止まった。	
8. 神の栄光	ルカ2:15	預言者 全ナレーター	このようにして、イエス様はお生まれになりました。	
			「天に栄光、神にあれ！ 地には平和、人にあれ！」	
				歌&トーンチャイム <グローリア> 組曲クリスマス・ストーリーより
	マタイ 2:11	預言者	彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、	
			黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。	
				トーンチャイム <我らは来たりぬ> 讃美歌Ⅱ 52番
祈禱	学園長	祈祷		
		後奏		
	エンディング演奏			トーンチャイム <We wish a Merry X'mas> イギリス民謡

<資料5> クリスマス・ページェント実施後アンケートより

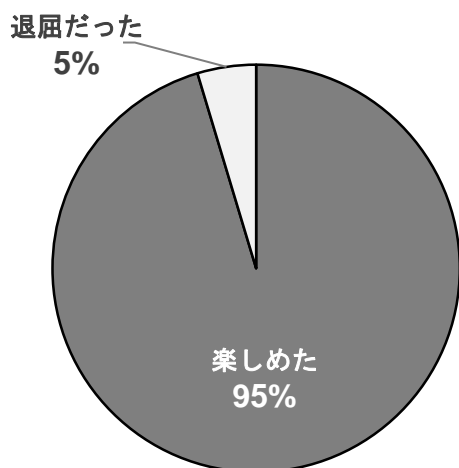
感染防止対策に配慮した
ページェントだったと思うか？



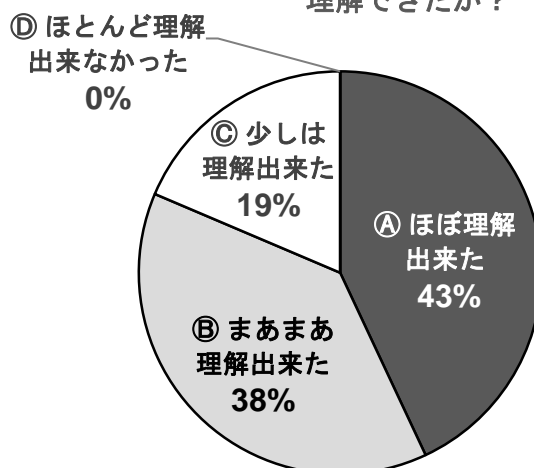
どのようなことに感染防止策への配慮を感じたのか？



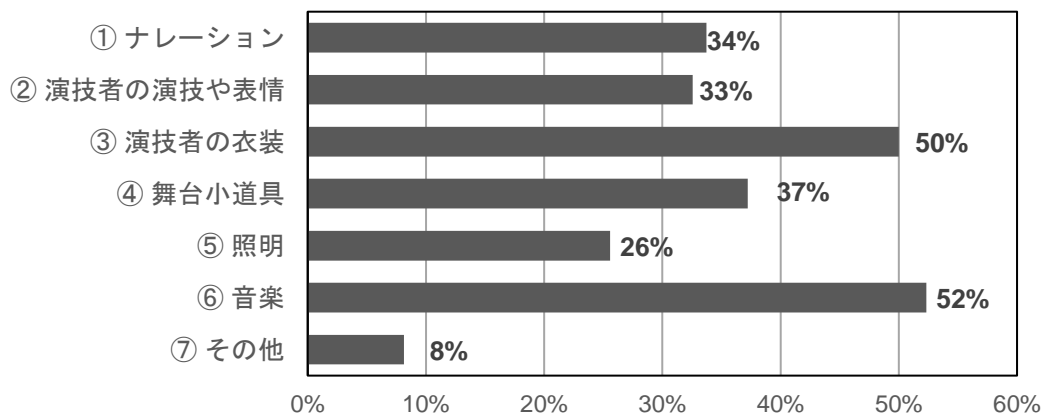
ページェントは楽しめたか？



ページェントの内容は
理解できたか？



どのようなところが楽しかったか？



<引用>

「活人画」世界大百科事典第2版より

平凡社

「演出のしかた」倉橋健 晩成書房より P37

<参考文献>

世界大百科事典 平凡社 1983 年発行

音楽大事典 平凡社 1972 年発行

聖書 新共同訳 日本聖書協会

聖書 新改訳 2017 いのちのことば社

新約聖書 NJK 新共同訳 (英語訳付き)

日本聖書協会・日本国際ギデオン協会贈呈
讃美歌・讃美歌第二編・ともにうたおう (合本)

日本キリスト教団出版局

讃美歌 2 1 日本キリスト教団出版局

讃美歌 2 1 略解 日本基督教団出版局

聖歌総合版 聖歌の友社

新聖歌 教文館

こどもさんびか改訂版

日本キリスト教団出版局

幼児さんびか キリスト教保育連盟

幼児さんびかⅡ キリスト教保育連盟

クリスマスのうた キリスト教保育連盟

演出のしかた 倉橋健 晩成書房

クリスマスとイースターの祝い方

石川和夫著 日本基督教団出版局

よくわかるクリスマス

嶺重淑・波部雄一郎編 教文館

図説クリスマス百科事典

ジェリー・ボウラー著

笹田裕子・成瀬俊一訳 柊風社

新聖書講解シリーズ マタイの福音書

山口昇著 いのちのことば社

新聖書講解シリーズ ルカの福音書

鈴木英昭著 いのちのことば社

新聖書講解シリーズ ヨハネの福音書

村上久著 いのちのことば社